

○ 平成29年度中央卸売市場事業会計決算について

1 市場事業会計の現状

市場事業会計は、少子高齢化等による食糧消費の減少や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加などの影響により、取扱額が減少傾向にあることや、市場の再整備に伴い、企業債償還金や減価償却費が高い水準で推移していることから、経常収支は赤字が続いている状況にあります。

また、再整備事業に伴う企業債の元金償還が平成23年度から本格化したことに加え、経年劣化が進む水産保冷配送センターや立体駐車場など再整備事業初期の施設については修繕費の増加が見込まれることから、今後も厳しい市場運営が続くことが予想されます。

このため、持続可能な市場運営を目指して、収入の増加と支出の削減を図るための施策に取り組んでおります。

2 平成29年度市場事業会計決算の概要

札幌市中央卸売市場事業会計は、市場を運営するための日常的な活動に必要な収入及び支出からなる収益的収支と施設の建設や改築及び設備更新などの整備にかかる収入と支出からなる資本的収支で構成されています。

1年間の経営成績を示す収益的収支及び資本的収支は下の円グラフのとおりです。収益的収入は2,287百万円で、市場の取扱額から算定する売上高割使用料が予算を下回ったことや関係事業者から徴収する光熱水費が減少したことなどにより、予算と比較して5百万円の減収となりました。

収益的支出は2,405百万円で、光熱水費や委託料などの市場管理費の減少により、予算と比較して100百万円の不用額が生じています。

この結果、収入支出差引は、118百万円の赤字となりましたが、予算と比較して95百万円の好転という結果になりました。

次に資本的収支についてです。

資本的収入は901百万円で、施設整備に係る費用の財源となる企業債の減少等により、予算と比較して39百万円の減収となりました。

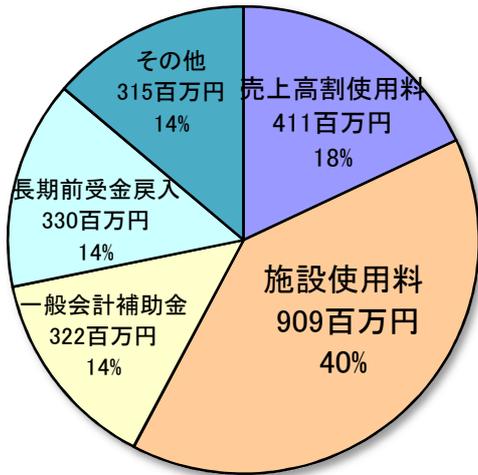
資本的支出は1,579百万円で、建設改良費が減少したこと等により、43百万円の不用額が生じています。

この結果、収入支出差引は、678百万円の赤字となりますが、予算と比較して4百万円の好転という結果になりました。

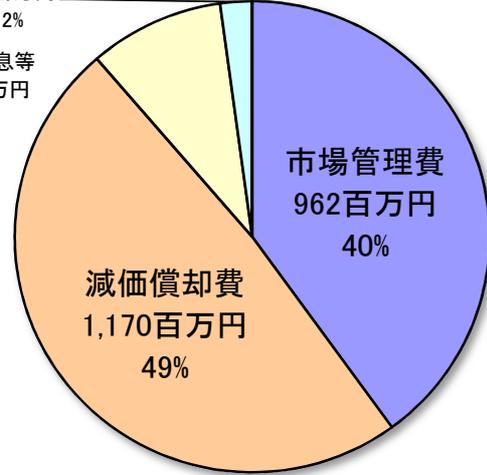
業務量では、水産物は「さけ・ます」、「さんま」などの不漁などにより取扱量は減少しましたが、平均単価の上昇により取扱額は予算より増加しています。また、青果物では天候不順の影響による野菜不足により取扱量・取扱額ともに予算より減少しています。

建設改良事業は、市場設備の老朽化に伴い、機能・性能維持のため検定電力メーター等の更新や財務会計システムの改良を行いました。

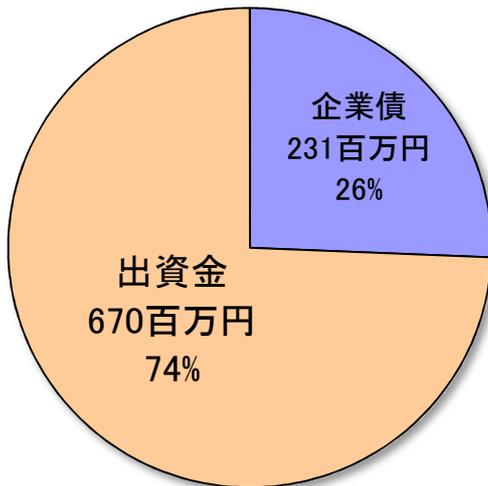
収益的収入(2,287百万円)



収益的支出(2,405百万円)
その他 52百万円 2%
支払利息等 221百万円 9%



資本的収入(901百万円)



資本的支出(1,579百万円)

